アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.122/2017 年 4 月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第122号をお届けします。

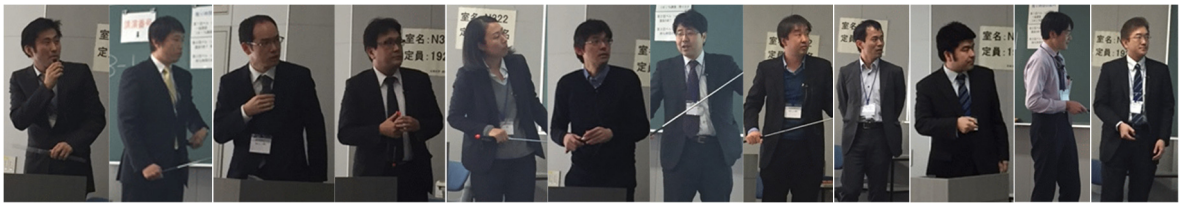
【1】 3月AP研開催報告

3月のAP研は、16(木)・17(金)に、岩手県盛岡市の岩手大学で開催致しました。AP研開催の数日前に降雪があったとのことで、あちらこちらに雪が残っていましたが、両日は天気もよく岩手山がきれいに見えました。研究会では、東京農工大の有馬卓司先生により「生体の誘電率などの電気定数が周波数に依存する媒質のFDTD法解析手法」というタイトルのチュートリアル講演を実施頂きました。媒質の誘電率や表面インピーダンスなどが周波数に依存する問題を時間領域法であるFDTD法で解析するため、時間領域に現れるたたみ込み積分を帰納的に評価する解法について分かり易く解説頂きました。有馬先生、ありがとうございました。

有馬卓司先生

【2】 2017年総合大会報告

2017年度の当学会の総合大会が、愛知県名古屋市の名城大学にて3/22(水)～25(土)の会期で開催されました。AP関係は一般公演とシンポジウムセッションを合わせて合計183件の発表がありました。今回、中堅研究者によるアラカルトセッションを企画・開催しました。アンテナ、伝搬、システムの各分野から、最新の成果や技術のサマリをご講演頂きました。また、「多様化するアンテナ測定技術に関する最新研究動向」と題したシンポジウムセッションでは熱心な討論が繰り広げられました。講演者の皆様、質疑応答で場を盛り上げて頂いた方、聴講者の皆様、ご参加ありがとうございました。



アラカルトセッションの講演者の皆様

【3】 AWAP2017(2017 Asian Workshop on Antennas and Propagation)開催案内

AP研2種研として6/28(水)～30(金)に北海道大学にて開催するAWAP2017について、会議の詳細が決まりました。詳細はAP研HPをご参照ください。発表申込締切は4/30(日)、原稿提出締切は5/31(水)です。皆様、奮ってご投稿下さい。以下が日程です。

<u>Technical Sessions</u>

- 6/28(PM):Poster Sessions
- 6/29:Oral Sessions for Invited Speakers
- 6/30:Technical Discussion

<u>Social Events</u>

- 6/28:Welcome Reception
  Student Exchange Meeting
- 6/29:Banquet

【4】今後のAP研のご案内

2017年5月のAP研は18(木)・19(金)に宮崎県宮崎市のホテルメリージュで行います。ソフトバンクの山口良様による「移動通信アンテナ・伝搬測定における仮想アレーアンテナ技術の適用」と題したチュートリアル講演の実施を予定しています。また、毎年の5月で恒例となっている、AP研執行部退任者(今回は長委員長、西森幹事、私岩井)の講演があります。なお、5月AP研にご参加の皆様を対象として、ホテルメリージュの宿泊の団体予約を行います。対象の日程は5/17(水)・18(木)・19(金)、部屋のタイプはシングルルーム(一泊朝食付き)、料金は6,500円(税込)です。お申込みの詳細はAP研HPの特設ページ(URLは以下)をご参照下さい。
URL:https://www.ieice.org/cs/ap/jpn/index.php?event/201705ap_stay

皆様ご存知の通り、当学会は6月に開催される総会から新年度が始まります。AP研も6月研究会から新執行部による運営となります。6月のAP研は8(木)に機械振興会館にて、7月は27(木)・28(金)に名古屋工業大学にて開催します。それぞれ詳細についてはAP研HPをご参照下さい。

AP研の発表申込締切は開催月の2か月前の10日です。ご投稿をお待ちしています。

【5】副委員長の戯言

私が当お知らせ記事を担当させて頂くのも次回までとなりました。次回は退任幹事団メンバーのご挨拶を掲載するので戯言は無い予定です。ということで、私担当の最後の戯言です。最後は(私にしては)辛口です。

最近、自分にとってはちょっとショッキングなニュースをみました。Natureなどのまとめで「世界のハイレベルな科学雑誌に占める日本の論文の割合がこの5年間で低下し世界の科学雑誌に投稿される日本の論文総数は世界全体の伸びを大幅に下回る」「日本の科学研究が失速し科学界のエリートとしての地位が脅かされている」「特に『材料科学』や『工学』の分野では論文数が減っている」という内容でした。AP分野ではまだそれほど顕著ではないようには思いますが、日本と世界を見渡すと、このような状況を皆さんも漠然と感じておられることと思います。このニュースでは、この状況の原因として、国から大学への交付金が減少するとともに科学分野への投資が停滞し研究者が長期的に安定して研究に取り組める環境でなくなりつつあると分析しています。

ノーベル賞を受賞された先生方の多くは、基礎研究の重要性を口にされます。たとえば、去年の受賞者である東工大の大隅良典先生も「ノーベル賞の対象成果は20年前に始めた基礎研究」と言われて出口志向が強まる現在の状況に警鐘を鳴らされています。成果を定量的に示すことを求める競争的資金が中心となり、時間をかけて可能性を追い求めるような研究への支援が減少していることも問題と言われています。

ここでデータを一つ、アメリカと日本の研究開発投資の年次変化を比べると、その増加の割合は基本的に大きな差はないそうです。ただ、一つ差があり、アメリカは基礎研究の割合が増えているのに対して日本では減少している、さらには特に大学の基礎研究の減少が顕著であるそうです。アメリカでは産学連携においても、基礎研究部分は大学に任せ、それを産業が実用化する、というコラボレーションがうまくまわっている、とのことです。(参照:http://summit.ismedia.jp/articles/-/314)

私は去年から大学で産学連携部門の担当となり、企業さんと大学のコラボレーションを推進する立場となりました。最近の産学連携では「組織対組織の連携」「本気の産学官活動」などの掛け声のもとに、以前に比べて遥かに大型の産学連携を進めることが推奨されています。それらの中では、産学連携に関する大学内の体制の作り方とか研究費の計上指針とかの議論が多いですが、本質論は、「大学における基礎研究の重視」にあるように感じています。アメリカに倣う必要は全くないですが、より本質的な研究を行う大学と、それを実用化につなげることが得意な産業が適材適所で連携することにより、より大きな競争力が生まれてくるのではと思います。それにより、日本という社会自体の力もアップしてくるのではないでしょうか。ガンバレ日本!!

(●´・ω・`)//""ニッポンチャチャチャ!!

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長　岩井誠人(同志社大)
E-mail:ap_ac-chair@mail.ieice.org (AP研執行部のメールアドレス)
AP-NET:AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて
AP研HP:http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/
ISAP Archives:http://ap-s.ei.tuat.ac.jp/isapx/